

Ⅲ. 発展編

① 持続可能な農都交流の取組みに向けて

(1) コーディネーター（専任の担当者）の定着

農都交流を持続的に取り組んでいくためには、都市部の企業・組織の担当者や受入関係者等との連絡・調整を担う“コーディネーター（専任の担当者）の定着”が欠かせません。

コーディネーターの定着を図る方法を検討しましょう。

【参考：継続的に“地域の窓口”を担う法人の例】

- ・自治体等による助成金を受給する法人（任意組織、公社、観光協会等）
- ・自治体等による指定管理等の業務を請け負う法人（任意組織、公社、観光協会等）
- ・自治体等による出資によって設立している法人（公社等）
- ・通年で多角的な収入機会を得る法人（6次産業化の運営組織、自然学校等）

(2) 地域内の受入先の開拓

① 受入先の定着・拡大

受入先の都合（家庭の事情、健康状態等）によって、農都交流を持続的に取り組めなくなるリスクが考えられます。受入先の定着・拡大を図っていくために、受入先の後継者対策（地域内募集、若年層・移住者等への呼びかけ等）を継続的に行っていきましょう。

② 異業種との連携

農村体験プログラムの参加者を増やすためには、異業種との連携が大切です。連携が活発になると、企画が多角化することも期待できます。参加者が3連泊以上する場合や大人数を受け入れする際は、農家民宿だけではなく、収容規模の大きな温泉旅館・ホテル・飲食店等と連携し、受け入れすることがお勧めです。また農家民宿を運営する事業者が周辺の寺院と連携すれば、農作業体験のほか寺修行の体験メニューも提供できるようになります。

③ 旅行会社との連携

都市部の企業・組織に対して、旅行企画（運送または宿泊の手配）を提案していけるように、旅行会社との連携を考えましょう。連携先として、最寄り都市に支店や拠点を置く大手・中堅の旅行会社、地域で募集型企画旅行を企画している着地型旅行会社が考えられます。

競争が激しい旅行業界では、多くの旅行会社が販路開拓に取り組んでいます。

④ 広域連携

近隣地区や周辺自治体と連携することにより、各地区の地域資源の活用や人材の協力によって、より多くの参加者の対応や企画の多角化が期待できます。

農都交流をきっかけとして、住民同士が意思疎通を図りやすくなるため、人手不足の農作業や地区の祭りへの参加の呼びかけ等、お互いの地域課題の解消に向けて地域間の協働の取組みが始まることも期待できます。

② CSVへの発展

CSR活動は企業が社会的責任として行う活動ですが、CSV (Creating Shared Value) は“共通価値の創造”のことで、CSR活動により企業の社会的な責任を果たすと同時に企業の“事業機会”を創造することです。

農村と企業の場合、地場の農産物の供給、開発拠点の移転、定年退職者の移住の受入れ等が考えられます。企業向けに開発拠点の移転や空き家・廃校等の活用を提案する場合には、自治体で企業誘致や移住定住を担当する部署や空き家バンク等に相談して対策を検討した上で、農都交流の活動の中で企業の担当者や参加者に提案をしたり、運営しているホームページにそれらの事業や活動を紹介する等の工夫を行いましょう。

- CSR：企業の社会的責任（環境問題への配慮や地域社会への貢献等）
- CSV：企業の社会的責任 + 企業の“事業機会” → 本業に収益をもたらすため活動・事業の持続可能性の向上が期待される

◆ 関連法令（旅行業法、道路運送法、旅館業法、住宅宿泊事業法）

① 旅行業法（運送または宿泊の募集・手配の仲介）

旅行業者（旅行会社）の登録をせずに、旅行者の依頼により“報酬”を得て、“反復継続して”宿泊の募集・手配などを行うことはできません。特に、地域の窓口を設けて受入先（運送または宿泊）の募集・手配を行う場合は旅行業者の登録が必要です。

(1) 旅行業者の対象業務

- ① 募集型企画旅行：予め旅行計画を作成し、旅行者を募集すること（パッケージツアー等）
- ② 受注型企画旅行：旅行者からの依頼により、旅行計画を作成すること（修学旅行等）
- ③ 手配旅行：旅行者からの依頼により、宿泊施設や乗車券等を手配すること

【旅行者のために運送または宿泊のサービスを募集・手配の仲介】

